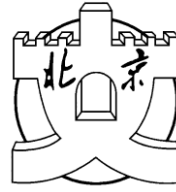


かささぎ



北京日本人学校
学校通信 第4号
令和3年7月23日
校長 細野 輝彦

北京日本人学校としてのミッション

北京日本人学校
校長 細野 輝彦

早いもので令和3年度の1学期も本日最終日となります。平常の授業をはじめ、入学式や運動会、校外学習等、With コロナの教育活動に保護者の皆様や学校運営理事会の皆様のご理解やご支援をいただき誠にありがとうございます。

さて、本校では、毎年、社会人及び教員としての教養を高めることをねらいとし、学校運営理事長にお願いして教職員研修を行っています。今年も、西理事長に講師をお引き受けいただき、先月、松下記念館にて、「企業理念と学校理念」というテーマのご講話を拝聴することができました。「北京日本人学校をどんな学校にしたいのか」「教師キャリアの中で北京日本人学校で何をしたいのか」「そのために実践することは何か」と自らの教育理念を見つめ直す西理事長からの問いは、参加した教職員たちにとって、キャリアステージごとの教育者としての強い使命感や、学校づくりを担う一員としての自覚について考える貴重な機会になりました。

特に興味深かったのは、100年、200年と続いている長寿企業は、「会社の使命が明確に言語化されている」という視点のお話でした。北京日本人学校は、1976年(昭和51年)4月26日に開校し、今年で45年になります。全世界の在外教育施設の中でも伝統がある日本人学校の一つです。教職員は3年くらいで代わりますが、西理事長の話をお聞きし、これからも100年、200年と続く北京日本人学校になるための本校のミッション(使命)とは何かについて、改めて考えてみました。



たどり着いた本校のミッション(使命)は、

児童生徒たちに、よりよい学習習慣と生活習慣を身に付けさせること

です。

そして、このミッション(使命)を遂行する学校、すなわち目指す学校像は、

不易と流行を見極め、児童生徒が自分の成長を実感することができる学校

です。

今回、学校のミッション(使命)と目指す学校像を言語化しましたが、大切なことは、絵に描いた餅にならないよう、事あるごとにこのミッション(使命)を、保護者の皆様や学校運営理事会の皆様、そして教職員と共有し、子どもたちが自分の成長を実感することができる教育活動を推進していくことだと思います。北京日本人学校だからこそできる教育活動を通して成長した、思いやりがあり、たくましく、国際性豊かに求めて学ぶ北京日本人学校の子どもたちが、将来、コスモポリタン(地球市民)として、世界のさまざまな課題に、いろいろな国の人たちと協力して解決していってくれることを期待しています。



A Better Education, A Better World.

4年生のニュース

4年生では、図画工作科の授業で「ポーズのひみつ」という学習を行いました。描かれているものについて話し合ったり、作品のポーズに注目したりしながら作品のよさを味わいました。

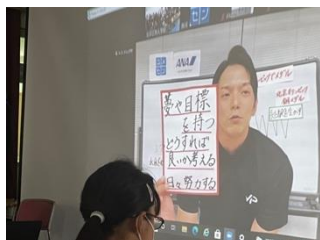


描かれているものや色遣いをよく観察し、「どんな場面か」「登場人物はどんな気持ちか」などについて根拠を示しながら考えを発表することができました。手紙を読む女性の気持ちを想像し、表情や色遣いから「大切な人が会いにこれなくなったと思う」といった意見がでました。また、泣いている女の子と2人の男の子が描かれている作品では、「男の子たちは女の子に謝りたいけど勇気が出ない」などのストーリーを考え、活発に話し合う様子が見られました。

子供たちからは「他の絵も鑑賞してみたい」「楽しかった」などの声が上がりました。友達と意見を交流したことで、作品のよさや面白さだけでなく、友達の考えのよさや面白さに気付くことのできた素敵な時間となりました。
(小学部4年)



中学部1年生のニュース



7月2日(金) JFA 主催の『夢セン』がオンラインにて実施されました。ANAの方々にもご協力いただき 2008年北京オリンピック銅メダリストの佐藤久佳さんを夢先生としてお迎えし、お話を聞くことができました。先生のような失敗経験も何い、【目標があるから頑張れる】【自分のためだけではなく、周囲への感謝の気持ちも忘れずに】という、辛い練習を頑張ってきた先生だからこそその重みのある言葉をいただくことができました。生徒たちは自分の夢について考えたり、発表したりすることで改めて目標を持つことの大切さを感じていたようです。



最後は、生徒たちが佐藤先生に向けてメッセージを書き、感謝の言葉や質問、また自分の夢に対する思いなどを書いていました。後日、佐藤先生から、サインとともに、一人一人に返事が届く予定です。

この貴重な経験をもとに、生徒たちがどんな夢を膨らませていってくれるかがとても楽しみです。佐藤先生、本当に貴重な時間をありがとうございました。(中学部1年)



事務局のまど

最近、私の席の右側の窓(事務局のまど)の外に広がる夏の雲を見て、数年前、一般企業で働いていた頃、私の周囲にいた様々な立場の人たちのことを思い出します。日本から派遣されて数年を中国で過ごす(多くは男性の)方々、私同様にいわゆる「現地採用」で一年ごとに勝負をかける「単身やまとなでしこ」……。そして日本人のオキテとは無関係な世界を生活している中国の人たちも一括りではありません。セレブな日々をたびたび Wechat で披露する高学歴同僚、堅実な客先に必ずいる経理ウーマン(なぜかこのポジションは女性です)、白酒宴会で商談を決める個人営業主の老板(社長)は。農村から出てきて買った小さな小さなマンションのローンを毎月やっとの思いで払い続ける若い男の子もいました。当然ですが、同じ時代を生きながら、皆それぞれが違う現実を生きていて、違う世界観を持っています。私は自分の現実を生きる合間に他人の世界を少しかじらせてもらって、こちらとあちらを行ったりきたり、たまには一人の話にのめりこみ過ぎて酔いそうになったり。当時、そんなことをしながら自分なりに周囲の世界を捉えようとし、バランスの良い立ち位置を探していたのかな、と思います。翻っていま、自分が捉えているつもりの世界と現実をあの青い空に浮かぶ雲から見たらどう映るのでしょうか。

(事務局 倉片)



ただいま 何人?

小学部

中学部

1年	31	1年	22
2年	23	2年	13
3年	36	3年	13
4年	26	中合計	47
5年	22		
6年	19		
小合計	157	総合計	205

※令和3年7月23日現在